

# 備北だより

号 十 (第) 発行 大阪府東成郡 土津  
 東成玉津郵便局留 二丁目  
 備北百人会  
 (郵便振替 大阪 790606)

もつとも基本的に表現するならば、それは人間の人間にたいする関係、それも人間の人間にたいする能動的な働きかけである。教育が働きかけであるかぎり、この人間社会を創っていく欠くべからざるへ力でもあるが、また逆にそれが権力による働きかけという行為に転化すると例えようもなく恐しいものになる。われわれはこの現代社会にあって徹底的に操作されている教育、権力の支配の具となつた教育をわれわれの共同運動でもって射ることによつて、<sup>(教育)</sup>解放闘争の

もう一つの戦場であることを確認し、共同体社会実現のための避けることのできない即争であると考え。教育闘争を共同運動の視座から切り切れないかぎり、完全な共同体社会の実現が不可能である。これはそのための摸索の一部である。

## 教養を身につけること 労働すること

共同教育試論Ⅰ  
 尾関 弘

「両刃の剣」論か言つような、今在る教育体制、教育体系、公教育が右よりだとか左よりだとかを論議するのではなく、公教育のへ公に名を借りた私教育、あるいは特定の階級のみに益することか可能な教育、すなわち教育そのものの在り方を本質にまで下つて考えてみなければならぬ。

「労働」(生産労働)が最大の教育であるといえる。何故なら、労働とは、人間存在とその人間性作り出す社会をささげるもつとも基本的な行為だからである。<sup>(人間性作り出す社会をささげるもつとも基本的な行為)</sup>性(創造性)を養ふことには、労働が最も有効である。我々が求むべき共同体の向世と関連付けてみると、教育はかゝる初期の教育において、農業労働がとりたてて重要なものと思われる。農業労働は、自然と大地に生かされて人間を知らしめ現代社会に見られる人間の、まんまんと覚醒するものである。このまんまんと、近い未来にみる社会の最良を約束するものである。

## 教育問題のありか

かつて全共闘運動の中で、「学向とは両刃の剣だ」という論議がまかり通つていたことがある。

使用する者によつて良くも悪くもなるというセンテンスかその後に続くのだから、はたしてどうであ

## 専門教師とは何か?

わかりやすいところから入ろう。まず、「教師だけが行うのが教育

ではない」ということである。わかりきつたことなのだが、昨今の華やかなりし教育論は、しばしば教師論であるとか教育技術論にする変えられ、いかに善良で巧妙な(?)技術をもつ教師になるかという辺りに向赴が歪曲、収斂されてしまつてゐる。

うようなもの。すなわち、一個の人間が生きていくための能力を伸ばし、その人間のもつあらゆる可能性を保障しようとするものと、とりあへずの定義付けをしておこう。(この種の定義付けは、ごく危殆に陥るかに、かかわらず取寄せ定義付けをしければ、議論は進まない)議論(生産性)をどうするかと、

子供は、学校教育だけでなく、文明、環境、両親、伝統その他諸々の社会的素因から影響を受けて学んでゐる。そのなかで専門教師とは何か。現存する公教育制度における教師という階級こそ、国家権力が教育総体を支配する、その仲立ちとなるものである。国家権力は、公教育の名のもとに教師を自由に操つて、権力にとって理想的な人間作りを可能にしている。

「How to catch rabbits.」  
 今日学校で行われている教育内容は多くの矛盾があることはすでに指摘されてきたことである。ここで私は、教育の基本は、いわば「How to catch rabbits」とい

## 教育と労働すること

労働が教育ならば、労働者・農民など生産者になつものたちが、  
 専業教師にかわつて新たな教師



として登場してこなければならぬ。それに伴って、生産者もまた重要な教育の場として把之直さねばならぬ。しかし、今日の生産者は、残念ながら、教育の場というより搾取と支配(管理)の場ではない。

「……労働と教養が分離し、労働が人間形成と無縁な、あるいはむしろ人間にとってひたすら苦痛であり、人間の喪失につながるものは、それは搾取される労働であり、あるいは自己自身のみの利益を目標とするものがある。そうした状態では、労働は神の降罰のごとく苦痛であり、人間の自由は余暇にしかなく、それ故に、その余暇の上に成立する教養が、肉体的労働より価値的に高いものと目される。労働の苦痛と並行して、一方その教養も商品化され、あれただしく自己の利益に奉仕するか、大きな目的を失った倦怠した理性となる。だが労働は、自己の生活

の生産的表現であり、日々あらたに自己を表現するものではなかつたらうか。

……労働は、社会的価値の生産であるのみならず、人間生活をもっとも意味深く充実させる行為であるのみならず、人間生活をも



弥栄での春の労働キャンプは、去る三月十五日、心配した雪もな

く順調にスタートをきった。弥栄からのキャンプが一報によると、百人委に連絡をとらず、直接にやってきた人もあり、メンバーは今のところ、常時15人という盛況ぶり。メシの仕度やなんやんかんやんが下変だが、仕事もおいおい進み、なごやかにやっている。キャンプが始まってから三日目ほどカ雪が降り、一気に20センチ程度ってしまい、しばらくは仕事も困難をきわめた。が、その雪もききよぐらいからそろそろとけ始めて

ある。そしてそうだった時、いわゆる教養を身につけることは、労働することと矛盾しなくなるはずである。レハ知該人と民衆—文化大革命小論(西橋和己より)

いる。二七日に七十回羽が到着するので、それまでに着すつ番を作り、鶏舎も作り直さなければならぬ。カンパツている。シイタケの方は、原木が干本以上手にはいることになり、その切りだし、植菌がキャンプの主要な仕事になるだろう。(三月二〇日)

——とのこと。キャンプの様子や、キャンプ日記などは、次号で詳しく紹介する予定。今からでも、あなたの手定めに、弥栄の春のキャンプを加えて下さい。

# いろいろばた

百人委では、弥栄での春のキャンプ以後、次のような活動計画をたてていきます。

- ①五月六日、共同体をテーマにした講演会(場所・同志社大、講演者は現在交渉中で未定)
- この講演会にむけて、四月中は関西の各大学で、クラブのオリエンテーションなどにまぎれこみ、百人委の集会、ステ貼り・ピラ入レなどをやる。——あなたの手定めに、シイタケでは、どんなことができそうか、考えてみて下さい。
- ②百人委定例会・大阪(四月二二日、五月二〇日予定(場所・こむろ塾))
- ③四月末、広島で集会。——広島方面の方、また知り合い、つてなどある方、御協力を。広島を、弥栄の卵、野菜の販売、消費者運動の根拠に。
- ④夏盆に弥栄之郷で、フオーク、演劇などやってみませんか。

〆ご存知、会計報告でございます。百人委会計帳(六、八九四円) (多現)

〆主な支出

- 鶏舎資材運搬費・二一、五二〇円
- 借地代・三六、五〇〇円
- シイタケ原木代・二〇、〇〇〇円
- シイタケ飼料代・三三、五〇〇円
- 備北だより印刷・三、〇〇〇円
- 製作・発送費
- 〆定期カンパ(21口) (月・一〇、五〇〇円収入)

以上のようにながりのピンチです。これから、ヒヨコ150羽の代金の支払いがあり、このヒヨコが卵を産み始めるまでに約八万円かかります。また、シイタケ菌は、二万円程度の借金でまかさないました。再度、定期カンパを募ります。〆共有券は、八五〇、一七万円の協力があれば、このうち二五五千円は土地購入の際の借金返済にあてました。さらに、現在の借地の購入や新たな共同体購入のため、共同体共有券運動を続けていきたいと思ひます。ヨロシク。